

Title	満願寺の鳥羽天皇御畫像と御木像
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1927
Jtitle	史学 Vol.6, No.4 (1927. 12) ,p.98(572)- 98(572)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19271200-0098

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

滿願寺の鳥羽天皇御畫像と御木像

紀州海草郡岡崎村滿願寺は、鳥羽天皇の勅願所と稱し、熊野御幸の節に臨幸もあり、貴賤上下の信仰厚く、堂舎も亦備はりしが、天正十三年豊公南征の餘火を蒙りて伽藍を灰燼に歸せり。後、紀州侯入封するや、之を保護して衰微の状稍や革まりしも、猶ほ往昔の半にも達せず。現時は僅に破層數縁を存し、八十有餘の老僧一人、香煙を守りて、辛くも餘影を保つの觀あり。されど寺寶中、鳥羽天皇冠直衣の御畫像(縦四尺餘横四尺餘)並に御木像(高二尺餘横三尺餘)を傳へ、御畫像は同寺興廢の狀を忍ばしむる濕損修補の痕あるも、足利初期を降らざる優品にて、根來寺傳來のものと同時代同一人の筆に成りしものゝ如く、又御木像は東帶の御姿なるも、本春筆者の發見せし御座の裏書に因りて、寶永年間の作なるを知れり。其の文は「此肖像之施主　當住持慈雲並寺内村供僧中　寶永七龍集庚寅七月吉祥日　鳥羽院御尊影　南
紀名草郡岡崎滿願寺」と五行に認めらる。

(武田勝藏稿鹿泥錄より)